



辻川だより

第20号 [2011 冬号] 平成23年12月3日発行

発行 辻川区 [辻川公民館]
〒679-2204 福崎町西田原 1227
TEL 0790-22-5763
ホームページ <http://www10.plala.or.jp/tujukawa/>



8日 12:00
鈴の森神社宮入



8日 10:50 井ノ口の休憩後

ピックアップ 9月17日深夜2時すぎ、辻川区の少なくとも3ヶ所に落雷。公民館は漏電ブレーカーが働き停電に。区の放送設備も東所方面の回線が機能しなくなった。→祭り前に修復



地域で暮らす全ての方が、安心して暮らせるように、地域住民が主体となった見守り活動を含む、地域支えあいの体制づくりの計画「地域総合援護システム推進計画」に取り組みたいと考えています。地域住民の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

今年も、あと僅かとなりました。この一年を振り返って一番印象に残る出来事は、やはり3月に起きた東日本における地震と津波による災害と原発事故でしょう。地元福崎町においても、9月の12号台風による豪雨で初めて避難勧告が発令されました。

地域総合援護システム推進計画について

区長 釜坂道弘



8日 11:45 宮入前の若い衆



8日 13:00 奉納相撲

協議員会は今

10・11月の協議員会での報告・検討内容を一部紹介します。

- ① 町内会費・協力金・地租割りの徴収について
- ② 来年度事業に関して各隣保・各種団体から提出された要望(十月末締切)を検討
- ③ 旧道カラー舗装(下記)は町へ『歩道』強調を要望
- ④ 鈴の森神社のブレーキを整理し一つのボックスに収納。民俗学のタペで常時使用する電源配置も併せて検討
- ⑤ 歩道橋の老朽化が心配。安全性の点検を町へ要請
- ⑥ 山口堂建設委員会からの具申(裏面参照)を受けて。平成24年総会への提案内容検討

公民館に新しいコピー機

維持費が従来比較で30%削減に。各種団体の皆さんも無駄遣いに注意し経費削減にご協力ください。

コンクリートシートの看板

「こみは当日の朝に出す」ことを徹底する看板が登記所跡と公民館のコンクリートシートに立った。周辺住民の悪臭被害を最小限にとどめるためにご協力をお願いします。

協議員会が開催された

9月22日(木)、協議員と民生委員、補助員で朝の通学安全指導を区内4箇所(横断歩道で行った。これは平成23年度交通安全モデル地区事業の一環としての取り組みで、当初予定していた21日が気象報発令で臨時休校となったため順延実施された。

今年度2回目の辻川界隈検討委員会が開催された

10月19日(水)、役場で行われたこの委員会は平成20年度から年2回開催されている。辻川区からは区長以下7名の委員が出席した。今回のテーマは兵庫県の「地域の夢推進事業」(平成23年度から25年度までの3カ年事業)として取り組む、「辻川地区舗装美化事業」の施工内容と三木家住宅の活用について。街路美化の第一期工事としては今年度、元松岡百貨店から田尻交番までがストリートプリント工法で舗装予定だそう。なお、経費は県と町が折半し負担する。

当面の予定

- 1月22日(日) 13:30~平成24年度辻川区総会
- 1月28日(土) 16:30~新隣保長会議

宮内番(十一隣保)の祭礼行事のお知らせ

- ◆1月1日・2日 正月祭り(鈴の森 高藤稲荷神社)
- ◆1月8日(日) 10時30分 冬えびす(鈴の森 恵美酒神社)
- ◆1月14日(土) 15時 どんど(鈴の森 高藤稲荷神社)

事業未報生口

◆9月17日(土) 隣保長・各種団体役員会議

- ① 9・11月行事・事業確認
- ② 敬老の日のお祝い金は三千元(町から二千元、区から千円)
- ③ 秋祭り実行委員会構成・運行予定等説明
- ④ 旧道「民俗学の道」の整備
- ⑤ 今年度交通安全モデル地区として秋の交通安全週間に役員と民生委員・補助員で交差点の通学指導立ち番実施
- ⑥ 来年度辻川区の事業に対する要望を各隣保から10月中に提出

◆9月25日(日) 道普請

秋祭りに向けてきれいな辻川に職(のほ)が立った。10月2日には老人会によって鈴の森神社境内が掃き清められ、辻には青年団はじめ有志によってしめ縄が張られた。肩合わせの太鼓の音が心地よい一日となった。

◆10月8日(土) 秋祭りの

平成四年に新調され今年20年目の辻川屋台。昨年の西光寺、今年の中島の先陣を切り、田原地区で最初に自らつくった屋台であることを記録にとどめた。

今年の特徴は青年団「少女隊」の出現が。祭りの準備や道中の露払いから各休憩所での掃除や片付けに至るまで大活躍。献身的な裏方に感動した。練り方についてはどうだったか。鈴の森神社の宮出では初



← 8日 17:00 後片付け「少女隊」



8日 12:10 ↑
鈴の森神社宮入

めて井ノ口との二台練りが実現したが、境内が狭くて真横に並べるには無理があった。総じて、身長での棒割が課題か。胴突や道中での煙草のポイ捨てはご法度。大切な屋台、多くの注目があることも忘れないでいたい。

青年団の人員が不足する中で3年間も団長を務めた村井君はじめ青年団員に乾杯。そして各種団体の皆さんの支えに感謝。来年度以降の秋祭りについては、青年団の要員確保、その準備や組織運営への年配者の配置等、先送りできない課題も残された。

◇10月15日(土)

辻川公園の清掃ボランティア活動に参加しました。

今年度最後の4回目、「ココロンクラブ等のボランティアグループの参加があり総勢は約30名でしたが、その内辻川からはわずか3名。草抜きや秋祭りのゴミ拾いを行いました。私たちの身近な散歩コースです。来年はあなたも是非!



◇11月10日(木)

区内3ヶ所のフワーポットや花壇に葉ボタンを植え替えました。年の瀬近いです(環境担当)。

★辻川子ども会が全国表彰20団体に

11月20日、平成23年度兵庫県子ども会育成大会で、辻川子ども会が(社)全国子ども会連合会より優良団体として表彰されました。福崎町では8年ぶりのことです。おめでとう

◇11月26日(土)

人権・青少年健全育成研修会

被災地のあなたに...:お願いです。あなたの心だけは流されないで。不幸の津波には負けないで。「...朝はかならずやってきます。くじけないで」九十九歳の詩人 柴田トヨさんの詩や人権啓発映画「クリムパン」を通して、24名の出席者がかけがえのない命をつないでいく意味を考えた。参加者が少なくして少し残念。

↓ 9日 21:00 新しい夜提灯



↑ 9日 22:50 乗子・青年団集合



9日 14:00 宮入→



9日 9:00 ↑
北野と練る



9日 9:10 →
鈴の森神社
参道を上る

鈴の森神社の玉垣にみる昔の辻川の賑わい

9 松岡源之助の周辺の人々

鈴ノ森神社の玉垣の中で「北海道」の地名を刻んだものに、「松岡宗次」「松岡百之助」「松岡為次郎」「鈴木大吉」「松岡勘蔵」があります。

上富良野町の上田美一氏は、「明治三十年から四十年迄、東中地区に於て郷土の草創期に尽力された方々」として、「東中地区内開拓者名」を掲げています(注1)。そこには、「明治三十三年 松岡源之助、松岡宗次、松岡勘蔵」「明治四十年 松岡富次」らの名があります。百之助、勘蔵、為次郎らの渡道について、眞弓氏は、「詳しい事情は判らないが、多分母堂の手引きで移住し来たものではなからつかと思う(注2)」と書いています。

松岡宗次：磯田家の生まれで、源之助の姉、のぶの婿養子として松岡家に入りました。北海道に渡り、源之助と共に行動し、常に源之助の側にいた人です。松岡木材の要職を務める傍ら、町村会議員などの公職にも就いています。宗次の墓は、妙徳山の墓地の一番高いところにあります。その子である茂は外科医で、茂の妻は福崎の新町で眼科医を開業していました。



松岡百之助：本家松岡は、最後の当主であった鈴子氏(一隣保)

の逝去にともない無くなりましたが、百之助家はその分家で、庄屋を務めていました。柳田國男の長兄と同年代で、揃って家を出ましたが、京都で発見され連れ戻された、という経歴をもっています。また、石炭生産(注3)を手懸けたのですが、井ノ口の保管場所から出火し神社を焼き(注4)、その補償に私財をはたき、源之助を頼って渡道したのでした。松岡木材の会計経理を担当していました。その墓は妙徳山の西北の墓地にあります。



松岡為次郎：「札場」という家号をもつ家の出でした。柳田國男は『故郷七十年』に、「上坂を少し北へゆくと、札場という家号の家があった。」と書き、その家の和吉との思い出を記しています。戸籍には、この和吉は為次郎の弟で、上田氏の回顧にあった富次は為次郎の二男です。和吉は東京で、富次の墓は妙徳山墓地と大門の墓地とにあります。



松岡勘蔵：現在では無住寺

となつていますが、田尻の熊野神社の隣の円乗寺の墓所に、真新しい墓があります。その向かって左側面には「松岡安蔵武男 勘蔵明治三十三年北海道空知郡上富良野村東中九線二開拓民トシテ入村後八十八年経過 勘蔵五男青島節二先祖代々の聖霊菩提之為此処二建立スルモノ也 昭和六十三年四月二日」と刻まれています。松岡勘蔵の子、青島節二は、現在、空知郡上富良野町東七線北一九号に住んでいます。



鈴木大吉については全く判っていません。ご存知の方があれば、教えて下さい。



(注1)「上富良野町郷土をさぐる会」機関紙「郷土をさぐる」第二号(一九八二年六月三〇日発行)
(注2)眞弓政久著『故松岡源之助翁追慕記』
(注3)亀坪中池西側の山中に石灰岩を採掘していた跡(露頭)が残る。すりの石灰岩から2億5千万年前のフスリナやサンゴの化石が産出する。
(注4)燃えたのは今の辻川屋台蔵辺りに明治四〇年頃まであった恵美酒神社という伝承もある(十

一隣保の伊藤源五さんより)。
《全4回連載の参考文献》
・松岡秀隆著『松岡源之助傳』
・松岡秀隆著『長谷川善雄歴観』
「鈴の森神社の玉垣」連載完



来年度改築予定の山口堂と大日堂(奥)

《山口堂建設委員会から》
10月4日の委員会では、①建設費 ②財源 ③建設に向けての今後の進め方、等について話し合った。委員会で検討した内容は今後、区長に具申され協議員会にかけた後、総会で承認を受ける必要がある。
なお、歴史探検隊による山口堂の調査では、祭られている仏像の制作年は大日如来(鈴の森神社の本尊)が寛文元年(一六六一年)、薬師如来が貞享四年(一六八七年)であった。

編集後記

八隣保の松岡秀隆さんによる4回連載の『松岡源之助』さんはいかがでしたか。松岡さんには郷土の偉人に関する多数の執筆がありですので、是非またご登場いただきたく思っています。さて、来年度の特集は「辻川の道」。江戸時代後期から現代に至る道とまちの変遷を古地図や国土地理院の地形図をもとに振り返ります。少しだけご期待ください。[田崎]